

翠星(品種解説シリーズ)

園芸作物の新品種

誌名	園芸作物の新品種
ISSN	
著者名	
発行元	農林水産技術会議事務局
巻/号	
巻号補足	
掲載ページ	p. 79-80
発行年月	1967年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター

Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



翠 星 (すいせい)

登録番号 ナシ農林2号

旧系統名 リー30

1. 育成経過

本品種は昭和14年(1939)「菊水」に「八雲」を交配して得られた交雑実生である。

は(播)種年次 昭和15年(1940)

接木年次 昭和16年(1941)

初結実年次 昭和19年(1944)

第1次選抜年次 昭和24年(1949)

昭和24年(1949)に第1次選抜を行い、「雲井」と同時に9県の試験研究機関において地方適否試験を開始し、その後特性が次第に明らかになり、黒はん(斑)耐病性の早生の青ナシとして特長のあ
ることが認められ、「翠星」と命名し、昭和30年(1955)「雲井」とともに発表した。

2. 特性概要

樹性 樹勢は強健で「菊水」に似ているが、枝の発生は「菊水」より密である。枝の伸長力強く、
短果枝の着生は「二十世紀」に比べれば少ないが、「菊水」程度で整枝せん定は容易である。

若葉は帯赤かつ(褐)色、細毛中程度である。成葉は濃緑色で、やや長だ円形、徒長枝の葉は、
やねじれる性質がある。

花芽の着生は「菊水」より多く花粉は多い。「八雲」とは交配不親知である。

果実 果実の大きさは中程度、250g平均ぐらいで、「八雲」より大である。形状は偏円形で幼木

では条こう（溝）のある不整形果が混在するが、成木になるにつれて整形になる。

果皮は黄緑色、果点は小さくて少ない。外観は「二十世紀」に比べて、ほとんど見劣りしないが、果皮が多少傷つきやすい欠点がある。果肉は白色で肉質はち密で軟らかく果汁多く、肉質の点では「二十世紀」よりむしろすぐれている。果汁の屈折糖度計示度は10～11度でやや低く、多少酸味があるので、甘味の少ない場合には、酸味をやや強く感ずる。

熟期は8月中～下旬で、心腐れはなく、日もちは、早生としては良好である。

3. 適地ならびに栽培上の注意事項

黒はん（斑）病抵抗性で、黒星病に対しても強いので、赤ナシと同じ薬剤散布で栽培可能である。短果枝の着生状態は中程度であるが、適当な勢力の発育枝の発生が多いので、側枝の形成は容易であるから整枝せん定は容易である。果実の形状は幼木時には多少不整形のものが多く、摘果時に注意して、整形果を残すようにするとよい。成木になるにつれて、不整形果は減少し、果形は整い玉ぞろい良好になる。なお、果皮が多少弱く傷が生じやすいので取り扱いに注意を要する。

果実は、甘味がやや不足で、酸味をやや強く感ずる年があるので、普及される地帯は、「雲井」と同じように静岡県以南の暖地である。黒はん病耐病性で、赤ナシと同じ薬剤散布、栽培可能であるから、赤ナシ栽培地帯において、受粉樹をかねて栽培ができる。しかし、「八雲」とは交配不親知であるから注意を要する。

4. 試験成績

各地における開花期、収穫期、1果平均重および果汁糖度に関する発表当時の成績は次のとおりである。

(1) 昭和28年(1953)

試験地	開花期	収穫期	1果平均重	果汁糖度
	月日	月日	g	
鳥取農試	4.12—4.23	8.10—8.28	156	9.5
千葉農試	4.13—4.17	8.19—8.27	210	9.5
兵庫農試	4.16—4.25	8.24—8.30	262	11.0
農技研(平塚)	4.12—4.24	8.14—8.24	204	11.0
愛知園試	4.10—4.24	8.17—8.28	220	11.0
愛媛果試	4.7—4.13	8.10—	168	10.5

(2) 昭和31年(1956)

試験地	開花期	収穫期	1果平均重	果汁糖度
	月日	月日	g	
秋田果試	5.3—5.8	9月中旬	253	9.8
福島園試	4.23	8.28—9.10	—	—
農技研(平塚)	4.12—4.20	8.12—8.24	233	—
愛知園試	4.13—4.20	8.17—8.27	236	9.7
三重農試	4.13—4.19	—	206	11.0

5. 育成場所および育成者氏名

園芸試験場

梶浦実、森英男、森田義彦、佐藤敬雄、金戸橘夫、町田裕